



## インプットを活用した授業

町田 智久（東京都台東区立駒形中学校）

### はじめに

授業で本文内容の導入はどのように扱ったらよいのであろうか。New Crownでは、Teacher's Manualの中に、『解説と指導』という本がある。その中にある「オーラル・イントロダクション」の活用を私は考えてみた。実際に授業の導入時の数分間で、解説書に示されている英文を単に読むだけの使い方では、余りにももったいないように思える。そこで示されている例文を基に、内容に肉付けし、自身の知識や経験を織り交ぜ、生徒のレベルに合った英文を作成する。それによって、オリジナルのインプット教材を作ってみることにしたのである。

### リスニング・インプットの方法

#### リスニング・インプットについて

私が学生の時以来、参考にしている『インプット理論の授業』（渡辺時夫ほか 三省堂）では、インプットを実施する上での注意点として以下の5項目を挙げている。

Miming（身振り手振りや実物、視聴覚機器を使って話す） Examples（抽象的な内容を理解させるために具体例を挙げながら話す） Redundancy（ある内容を理解させるために多様な言語表現を駆使する） Repetition（必要な内容や表現を繰り返し使う） Interaction（教師と生徒とのやり取りを多く用いる）

著者は、これらの頭文字をとってMERRI approach\*（メリー・アプローチ）と名付けている。では、これらのアイデアを使い、私がどのようにインプットを行なっているか、紹介したい。

私は各レッスンを扱う際に、導入としてこのインプットを使っている。なぜなら、教師にとっても生

徒にとっても最も集中できるのが、本文内容の導入の場でインプットを使うことだと、私は思っているからである。もちろん、授業全体を通してできるだけ多くの英語によるインプットを与えている。New Crownの各レッスンの内容は歴史・科学・文化と多岐にわたり、読み物としても十分に楽しめるものである。それらにさらに肉付けして、より面白い"お話"に仕上げることを心掛けている。

#### 私の実践するインプット教材の作り方

いきなり上記のMERRIを使って授業を進めようと思っても、なかなか難しい。そこで、インプットを行なう時に使う台本作りから始める。つまり、MERRIのアイデアを活用して、世界に1つしかない独自のインプット台本を作るのである。

まず、教科書の各レッスンをセクション毎に分けずに、全体をひと続きのものとしてまとめた話を作る。使うものは、教科書と『解説と指導』、そして自分のアイデアである。本文の内容から外れないように注意しながら、その背景にある事実などを台本の中に織り交ぜていく。次に、『解説と指導』の中でオーラル・イントロダクションの例として示されている表現や言い回しなどを参考にし、活用する。その際、自分の教えている生徒のレベルや傾向を考慮して、表現を考えるようにしている。例えば、復習のために前の課で学んだ表現を織り交ぜたり、難しい表現方法を避けてより平易な表現で言い換えたりすることなどである。私は日々授業の中で生徒を観察し、生徒の習熟状況に合った台本作るよう心掛けている。

そして最後に、これは私が最も大切だと思っているのだが、自らの知識や体験談などを調味料として台本に加える。それによってオリジナル性が高まり、

最高のリスニング・インプット台本ができ上がる。外国での異文化体験や学生時代の思い出など、関連すると思うものは何でも加えている。例えば、私は学生時代に、Martin Luther King, Jr.の生家や記念館を訪ねた経験があるのだが、そこで実際に見たものや感じたことをいつも台本の中に織り交ぜている。やはり、本物の持つ迫力や説得力は大きい。そして本物に触れた時の生徒の反応は、やはり違うのである。生徒に訴えかけるような、より生き生きとしたインプット台本を作るためにも、この調味料は欠かせない。

### 授業での活用の仕方

オリジナルのリスニング・インプット台本ができたら、今度はその活用方法である。まずは、台本を覚えなくてはならない。とは言っても、自分で書いた文章だけにその内容や構成などは覚えやすく、またたとえ忘れてしまったとしても、思い出しやすい。私は授業前に20分間、台本を覚える作業をしている。新出単語などを軸に話を頭の中でイメージ化し、声に出して練習している。以前、先輩教師の1人に「教師は最高の役者であるべきだ」と言われたことがあった。私はその言葉を常に意識している。台本を棒読みする大根役者ではなく、自然な台詞で感情をも込められる一流役者になれるように、毎回努力を重ねている。

さて、台本を覚えられたら次は展開である。インプットを行なうにあたり重要なことは、生徒をインプットの内容理解に集中させることである。そのためには、できる限り生徒の負担をなくすべきだと考えている。最も大きな負担となるのは、新出単語であろう。そこで私は、インプットを行なう前に新出単語を提示してしまう。その際、単に新出単語とその意味を教えるのではなく、MERRIを活用して生徒に新出単語の意味を推測させるようにしている。例えば、2年Lesson 8で登場する'find'では、まず黒板にその単語を書き、次に'Where is my key? I am looking for my key. Oh, I find it in my pocket.'とジェスチャーを交えて言う。そして最後に、ポケットの中からカギを取り出して見せるのである。生

徒が英文とジェスチャーから意味を理解し、正しく答えられたら、板書してある英単語の横に日本語で意味を書き加えるのである。この活動を通じて生徒は、推測する力を養い、外国語を学ぶ際に必ず感じるambiguous situation（不確かな状況）に慣れていくのである。

これらの準備の上に立ち、最後に先程覚えたインプット台本を実際に生徒に聞かせる。そこでも、MERRIを大いに活用し、生徒を話の世界に引き込むことが大切である。私が話をする際に注意しているのは、生徒の視線を一点に留めておかないことである。ピクチャーカードや黒板に書いた単語、さらには教室内を動いてのジェスチャーなど、生徒の視線をあちこちに向けることによって、飽きさせず、話の内容を追うことに集中させ続けられると考えている。資料1では、2年Lesson 8で扱ったインプット台本を示している。その時には、ピクチャーカードとともに、フロッピーディスクやCD-ROM、そしてウイルス対策ソフトの空き箱を使いながらインプットを行ない、生徒の視線を動かし続けた。

ところで、英語によるインプットを、生徒はどの程度理解しているのだろうか。それを探る上でも、インプットの内容に関する質問をすることは有効である。生徒の理解状況を知るために、私は毎回インプットの後に質問（資料2 参照）を行なっている。その際、質問及びそれに対する解答は日本語にしている。なぜなら、生徒がインプットの内容をどれほど理解しているかのみに注目したいからである。日本語ならば、生徒も文法や綴りの誤りを気にする必要もない。質問を作成する上で大切なのは、話の大枠をつかませることを中心に据え、全体を簡単な質問で構成することである。「英語」を聞くのは苦手だと感じている生徒に対しても、分かった気にさせる工夫が必要なのである。生徒に「何となく、話の内容が分かる」と思ってもらえたら、そのインプットは成功なのではなからうか。それによって、クラス全体のインプットに対する集中力も高まり、活気のある授業になると確信している。

私は、これら一連の流れをインプット活動と捉えて実施している。新出単語の導入から質問解答まで

長い道のりのように感じられるかもしれないが、慣れてくれば25分程で十分こなせる過程である。

### リーディング・インプット

リスニング・インプットによって、大まかに各レッスンの内容を把握した生徒に対して、同じ台本を使って今度は目から内容を理解させる。リスニング・インプットを行なっていて足りないのは、「読む」「書く」といった技能についての活動である。私はそれらの側面を補うために、リーディング・インプットを実施している。それは、耳からではなく目からインプットを行なう方法である。以下、私の実践するリーディング・インプットについて紹介していきたい。

使うものは、先程のリスニング・インプット台本である。それに質問を加えて、英文読解のテストのような形式にして提示する。生徒は、一度聞いて話の大筋は理解しているため、多少長い英文も苦にはならないはずである。繰り返すようだが、生徒に読ませることも考慮すると、やはりインプット台本は生徒の習熟状況に合ったものでなくてはならない。私の場合は、B4サイズの用紙の左半分にインプット台本、右半分に質問という構成にしてプリントを作成している。その際、質問は日本語ではなく今度は英語にしている（資料3 参照）。リスニング・インプットの時とは違い、「英文を読み」「英語で書く」ことをねらった活動だからである。質問内容は、リスニングで行なったものとは重ならないようにするが、あまり難しいものは出さない。あくまでも、本文内容を理解させるような質問を中心に構成する。ここでも重要なことは、英語に対して苦手意識を持つ生徒にも、英文を読んで理解できた気にさせる工夫である。「話の内容が分かって、何となく答えられた」と思わせなくてはならない。そのため、私は生徒が解答する際は文法の誤りは無視し、さらに1単語で答えてもよいことにしている。

このようにして、リスニングとリーディングのインプットにより、耳からそして目から各レッスン内容を把握した生徒にとっては、教科書の内容は既知のものとなる。そのため、新しいものを学習すると

いう心理的な負担はなく、教科書の本文内容を細かいたところまで鑑賞し、より深くそれぞれのレッスンで語られる話を味わうことに集中できるのである。それにより、単に話の筋を追うだけではなく、そこから広がりを持って、物事の背景や様々な事象についても考える基礎を築くことができると考えている。

### 各レッスンの授業の流れ

このように書いてくると「文法指導はどこで行なうのか」といった疑問の声も出てくるかもしれない。当然、新出文法事項を指導する時間をどこかで確保しなくてはならない。私はリスニング・インプットを実施する前に、文法事項の指導だけをあらかじめ行なってしまう。文法という、生徒にとっての心理的な負担をなくし、生徒をよりインプットの理解に集中させるためである。文法説明をし、練習問題等で確認することで、新出の項目は既知のものとなる。最初に新出文法を指導すれば、その文法事項をインプットの中で使っても負担になりにくく、インプットの理解そのものに生徒が集中できるようになると考えている。さらに、インプット台本の中に事前に学習した文法事項を織り込むことで、生徒はその文法の用法を再確認することもできる。

そのため、各レッスンでの指導の流れは、次のようになっている。

文法導入・練習	新出単語の導入	リス
ニング・インプット	内容の質問解答	リー
ディング・インプット	本文理解	ディング

このようなパターンで毎回授業を進めることで、生徒も次はどのような活動になるのかが分かり、安心して授業に集中できる。これを私は、よい意味での授業のパターン化と考えている。

### おわりに

以上、私の実践するインプットを中心とした授業展開について述べてきた。ちょっとした工夫で、生徒が触れる英語の絶対量が増え、英語に対する心理的なハードルが低くなると考えている。インプット

を実施した生徒に対して行なったアンケートでは、「あなたは英語が好きですか」という質問に対して、実に80%以上の生徒が「好き」と答えている。一般に「英語は嫌い」と答える生徒も多いが、インプットを授業に取り入れることで、生徒の英語への興味や関心を高めることができたと考えている。それにより、活気のある授業となり、英語が苦手な生徒に対しても楽しいと思わせる授業が展開できると考えている。学力に関しては統計等を取っていないため、具体的な数値を紹介することができないのが残念である。しかし、実用英語技能検

定（英検）ではインプットの授業を受けた生徒の分野別の得点平均が、他の項目でもそうだが特にリスニング力では全国平均を大幅に上回っている。今後は、学力の面からもインプットを活用した授業の効果をさらに検証していきたい。

<注>

\* 現在ではExpansionとRewardを加えて、MERRIER approachとなっている。

<参考文献>

『インプット理論の授業』渡辺時夫ほか 三省堂 1988年  
『現代英語教授法総覧』田崎清忠 大修館書店 1995年

**<資料1> Listening Input Lesson 8  
(Reading Input と同様)**

In this lesson, you will study about computers and the Internet. (Look at this picture.) Meiling is looking at a homepage of extinct animals. One of them is a moa. Moas lived in New Zealand and they were very big. Meiling found much information about moas through the computer.

By the way, do you use computers in your house? I use a computer to send e-mails to my friends everyday. We use computers for many reasons. Sometimes you can send e-mails, sometimes you can write a story, and sometimes you can find good information. I often use Search Engine, such as MSN or Yahoo, to look for useful information. All you have to do is just click, and then you can get useful information very fast. It's the fastest system of all.

But, be careful when you use computers. There are many kinds of viruses. They sometimes break the system of your computer. And there are also bad homepages. They have information about sex, violence and smoking. You must protect you and your computer by yourself. There are many types of good systems to defend you. I use Anti-Virus System for protecting my computer and me.

なお、下線部の語は板書し、意味を紹介した単語を示している。

**<資料2> Listening Input ワークシート Lesson 8**

- 1 このレッスンでは何について学びますか。
- 2 メイリンはどのようなホームページを見ていますか。
- 3 コンピュータを使ってどのようなことができますか。
- 4 情報を検索するために町田先生はどのようなページを使っていますか。
- 5 インターネットにつなぐ時は、どのようなことに注意する必要がありますか。
- 6 自分自身やコンピュータを守るためには、どのようなものがありますか。

**<資料3> Reading Input ワークシート Lesson 8**

- 1 Where did moas live many years ago?
- 2 Can you send e-mails when you use computers?
- 3 Why does Mr Machida use Search Engine?
- 4 Are there bad homepages in the Internet?
- 5 What do viruses do in your computer?
- 6 What does your teacher use to protect his computer?